

氏名	中尾 鑛 なか おひろし
学位の種類	農学博士
学位記番号	論農博第575号
学位授与の日付	昭和50年3月24日
学位授与の要件	学位規則第5条第2項該当
学位論文題目	たたら製鉄における林野利用の歴史的研究 —鳥取県日野地方を中心として—

論文調査委員 (主査) 教授 三橋時雄 教授 岸根卓郎 教授 坂本慶一

### 論文内容の要旨

中国山地における林野利用の歴史を考察するとき、他の地域に比べて著しい特色とみられる点は、中世末期から約3世紀にわたって、たたら製鉄のための林野利用が展開し、そのような林野利用の歴史が、現在の中国山地の林野の所有形態や利用形態に強い影響を残していることである。

本論文の中心課題は第Ⅲ編「鉄山の所有形態と利用構造」であるが、全体の構成と内容を概説すると、次のようである。

第Ⅰ編では中国山地のたたら製鉄の展開を、伯耆国日野郡を中心として概観している。この地方は出雲国仁多郡や飯石郡と並んで、たたら製鉄の繁栄した地域であるが、出雲国に比べて、まだ十分に研究が深められていないので、出雲国と対比しながら伯耆国のたたら製鉄の特徴を解明している。

第Ⅱ編では出雲国の三名族（田部家・絲原家・桜井家）と並ぶ巨大な鉄山師である伯耆国日野郡の近藤家を取り上げ、同家のたたら生産構造を分析している。

たたら経営の基幹部門は製鉄部門であるが、この部門と林野利用部門や砂鉄供給部門がどのように結合し、またどのような相互依存関係にあるかを、古文書を基礎資料として説明している。

第Ⅲ編はたたら製鉄のための林野（鉄山）利用を、中国山地における林野利用の発展段階の中で考察し、「製鉄用原料生産を目的とする採取利用段階」として位置づけるとともに、鉄山の所有形態の特徴を指摘して、(イ)自己所有型鉄山と(ロ)生木（はえき）購入型鉄山とに二大別し、製鉄部門で必要とする歴大な原料供給のための林野の利用構造（鉄山の利用計画、木炭生産の技術、木炭生産の形態など）を分析している。また鉄山師による林野の集積過程に注目して、伯耆国日野地方の針山師の林野所有上の特色（持分共有林の集積）を指摘し、その成立がたたら製鉄の発展を契機とする「入会林野の分解」に基づくものであることを古文書によって実証している。

第Ⅳ編は中国山地におけるたたら製鉄の展開と当時の農村社会との相互依存の関係をとり上げ、とくに鉄穴（かんな）の所有や利用形態について鉄山師と村方の「儀定書」を通じて分析し、たたら生産構造

をより深く理解することに役立てている。

### 論文審査の結果の要旨

たたら製鉄に関する研究は、すでに幾つかあるが、それらは主として製鉄過程や鉄の流通過程に関するもので、製鉄のために利用される林野（鉄山）そのものについての研究は、空白に近い状態である。

著者はこの未開拓の分野について研究を深め、伯耆国日野地方で収集した多くの資料（主として近世の古文書）によって中国山地における林野利用の歴史的展開を明らかにしたが、特にその中でも新しい事実の発見と思われる点をあげれば次のようである。

(1)鉄山の所有形態は従来は単一形態と理解されていたが、(イ)自己所有型鉄山と(ロ)生木（はえき）購入型鉄山との2種類があり、さらに(ロ)について、第1形態すなわち字義通りの生木年限売買の形態と、第2形態すなわち長年月にわたってそこでたたらを経営する形態とのあることが、古文書の解明によって発見された。

(2)生木購入型鉄山の性格と利用内容が明らかにされた。とくに第2形態は伯耆国日野地方に特有な所有形態であって、たたらを規模を拡大し、新しい立地を求めるために、主として入会林野を対象地として、鉄山師と村方農民との「儀定」によって成立したものであることが判明した。

(3)鉄山師が鉄山を利用して行なう木炭の生産は、製鉄部門で精錬のために使用する木炭の大量需要に対応しうる形をとり、いわゆる「鉄山師直営の大規模な焼子式生産形態」が成立していたことを実証した。

(4)これまで不明とされていた伯耆国日野地方の持分共有林の成立要因が、鉄山師の林野集積過程の分析によって明らかになった。すなわち生木購入型鉄山の第2形態の成立によって、他人所有林野でたたら稼業が長年月にわたって行なわれ、それが定着する過程で請所の地盤所有が鉄山師の手に移って行き、村方農民もたたらが定着することを支持する。このような過程で、すでに近世後期には共有関係が発生していることが資料によって確かめられた。

(5)なお第IV編でたたら展開と農村社会との関係を取りあげ、農民や農村がたたら産業の誘致を歓迎し、鉄山師側も農民や農村に依存するところが大きかった点を資料に基づいて指摘していることは、今日の問題（農工一体など）を考える場合にも参考になり、興味深いものがある。

以上のように本論文はたたら製鉄用の木炭を生産する鉄山についての歴史的研究を深めて、幾多の新事実を発見しており、農林業史の研究に寄与するところが大きい。

よって、本論文は農学博士の学位論文として価値あるものと認める。